

■宇野浩二 <大正デモクラシー>期に中心作家となり、その執念で“文学の鬼”と言われ、<敗戦>後も、大きな反響。

うのこうじ  
足尾鉦毒始・1891＝ 福岡市南湊街で、福岡県師範学校教員宇野六三郎・キョウの子に生まれる。7つ上の兄は知的障害児。

日清戦争始・1894＝ 3歳：父が急逝し、父の従弟本多家を頼って神戸に移住。  
日清戦争終・1895＝ 4歳：母が父の遺産を父の姉の嫁ぎ先入江家に預けて使えなくなったため、大阪市糸屋町に移住。  
清元・三味線を覚えた母に従い、芝居小屋に入り出すようになる。  
八幡製鉄始・1897＝ 6歳：陸軍借行社付属尋常高等小学校に入学。

Bushidou・1899＝ 8歳：入江家の破産で遺産を失い、母の兄福岡家を頼って南区宗右衛門町の花柳界近辺に移住。  
ビア/国産化・1900＝ 9歳：芸妓加代子となった母と離別。  
田中正造直訴1901＝10歳：育英尋常高等小学校に転校。

日露戦争始・1904＝13歳：本多家の援助で、大阪府立天王寺中学校に入学、校友会誌{桃陰}に詩など投稿し始め、  
日露戦争終・1905＝14歳：  
満鉄発足・1906＝15歳：本多家から商業学校への転校を命じられると、福岡家に逃げ帰り、天王寺中に通い続ける。脚気発病。

伊藤博文暗殺1909＝18歳：卒業し、府内の小学校の代用教員となるが、脚気再発で辞職し、大和天満村の母のもとに行く。  
韓国併合・1910＝19歳：再び本多家の援助で、早稲田大学文学部予科に入学。同級前後に、三上於菟吉・広津和郎・直木三十五。  
この間、下宿転々。

明治天皇没・1912＝21歳：三上と雑誌{しれえね}発刊するも、風紀紊乱の廉で発禁。  
大正政変・1913＝22歳：母と関西旅行したことが旦那に知られ、母と一時絶縁。『処女作品集「清二郎 夢見る子」』出版。  
第一次大戦始1914＝23歳：卒業試験に落第し、早大を中退。永瀬義郎、鍋井克之らが始めた{美術劇場}に協力。  
21ヶ条要求・1915＝24歳：母も上京。徴兵検査。広津やその紹介で江口渙と親交深める。雑誌に童話「揺籃の唄の思い出」発表。  
民本主義・1916＝25歳：蠣殻町の銘酒屋の娘きみ子と同棲するも、生活苦で芸者に身売り。  
生活苦凌ぐべく転変し、

本格政党内閣1918＝27歳：多数の童話執筆。「二人の話」「屋根裏の法学士」発表。  
ベルサイユ条約・1919＝28歳：きみ子は自殺。『終世の友となった広津和郎の紹介で「蔵の中」を{文章世界}に発表し、「苦の世界」、  
大暴落・1920＝29歳：押しかけてきた芸者キヌと結婚するも、  
原敬首相暗殺1921＝30歳：銀座の台湾喫茶店女給玉子と知合いて愛人となり、  
水平社結成・1922＝31歳：長男が誕生。「山恋ひ」、  
関東大震災・1923＝32歳：「子を貸し屋」などにより大正文学の中心作家となる。

この間、愛欲の相手も次々と変わり、妻と愛人との板挟みに苦しみ、

金融恐慌・1927＝36歳：『日曜日あるいは小説の鬼』発表後、精神に変調を来し入院、この間、芥川竜之介の自殺を聞く。

世界恐慌・1929＝38歳：脳貧血起こして再入院。この間、妻に隠し子のことを告白、  
この間、明治大正の日本文学を耽読し、しきりに童話を執筆する一方、以後愛人八重との逢引続く。

満州事変・1931＝40歳：  
五一五事件・1932＝41歳：妻の希望で長男を引取る。  
国際連盟脱退1933＝42歳：『大阪の画家小出檜重をモデルに作風も一変した「枯木のある風景」により文壇に復帰、「子の来歴」、  
帝人疑獄事件1934＝43歳：前年死去した嘉村磯多の全集を出すことになり、その編集殆どを担当。「枯野の夢」、  
芥川直木賞始1935＝44歳：母が死去。

二二六事件・1936＝45歳：  
日中戦争始・1937＝46歳：前年自殺した牧野信一の全集編集に尽力。  
健保+総動員 1938＝47歳：中学同窓の坂口常三郎をモデルに「楽世家等」を発表し問題に。評伝「ゴゴゴリ」刊行。  
第二次大戦始1939＝48歳：近松秋江の病気療養費のための「近松秋江傑作選集」編集殆どを担当。「器用貧乏」などを発表し、  
大政翼賛会・1940＝49歳：『菊池寛賞』。

日米開戦・1941＝50歳：  
・・・・・・1942＝51歳：回想的文学「文学的散歩」、  
創価学会検挙1943＝52歳：長男が学徒出陣。  
年金+総武装 1944＝53歳：妻が隣組の仕事などで過労に陥り心臓弁膜症になる。  
敗戦・1945＝54歳：長野県松本に疎開し、妻に代って買出しなどに奔走。敗戦となり、長男も復員。  
1946＝55歳：妻が死去。長男が結婚。  
新憲法施行・1947＝56歳：筋肉痛を病み、治療受ける間、水上勉に口述筆記して貰う。回想的文学「文学の三十年」。  
極東裁判判決・1948＝57歳：『戦後の代表作は「思ひ川」で、

独立回復・1951＝60歳：『大阪人間』発表するも、モデルとされた坂口常三郎に告訴され、未完に。玉子と再婚。「読売文学賞」。  
この間、「松川事件被告らの本を読んで関心抱き、広津和郎に働きかけ、  
TV放送始・1953＝62歳：最初の咯血。『彼に呼応して書いた「世にも不思議な物語」が大反響。随筆の評論「芥川龍之介」は力作。  
自衛隊発足・1954＝63歳：  
55年体制始・1955＝64歳：再び咯血、

インサントラン・1958＝67歳：三度目の咯血して、病臥するようになり、

安保闘争・1960＝69歳：  
タイタイ病始・1961＝70歳：『松川事件の無罪判決を聞いて広津和郎に祝電を打ってまもなく、大量に咯血し、没した。